

遊具による事故防止のために全力を！

市、国交省の「安全確保の指針」を確認しながら安全チェックの強化を約束

3月議会的一般質問で私は、最近多発している遊具による子どもの事故問題をとりあげ、事故の実態を明らかにするよう求めることもに対策を強化するよう求めました。これに対して市側は、国土交通省が策定した「遊具の安全確保の指針」などにもつとく検討を約束しました。



【サンシュユ】ミズキ科の落葉小高木。漢字で、「山茱萸」と書きます。3月の10日過ぎに開花、黄色の花が目立ちます。この木の枝を暖めた牛乳に入れて、一晚保温しておくともヨーグルトができるとか。写真は柿崎区百木で16日、撮影。

【橋爪】2月3日に放映されたNHKの特集「遊具に潜む危険」をみて、改めて、当市でも対策を強化すべきと思った。遊具による事故の実態はどうなっているか。

昨年度は50件も発生

【村山市長】平成29年度における公立の幼稚園・保育園及び小中学校で発生した遊具に起因する事故件数は、保育園で21件、小学校で28件、中学校で1件の合計50件。これらのうち、ジャングルジムなどの「固定遊具に起因する事故」は、保

育園で6件、小学校で27件、中学校で1件の合計34件である。さらに、これら34件のうち、国や県への報告義務がある30日以上の治療期間を要した事故は、保育園1件、小学校7件の合計8件であった。平成30年度においては、本年2月末までの間で、遊具に起因する事故の件数は、保育園で24件、小学校で18件の合計42件となっている。これらのうち、「固定遊具に起因する事故」は、保育園で7件、小学校で18件の合計25件である。さらに、これら25件のうち、30日以

上の治療期間を要する事故は、保育園で2件、小学校で3件であり、保育園での事故はいずれも園外保育における遊具からの落下による腕、肘の骨折、小学校では、雲梯へうんてい」と鉄棒からの落下による、いずれも肘の骨折となっている。

国交省の指針の徹底を

【橋爪】NHKの番組で紹介された国土交通省の「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」は子どもの遊びの重要性、特徴、遊びにおける危険性と事故、遊具における事故と安全確保の基本的な考え方など専門的な英知を結集した、たいへん優れた文書だ。遊具に係わるすべての部署でこの指針を徹底していただきたい。

【村山市長】我々が提供するものについては、しっかり管理しながら、瑕疵（へかし）のないものを提供するということに心がけていきたい。そこから発生した事故については、原因を究明していく。

【橋爪】市では遊具について、年3回以上の（定期）点検をされているというが、チェックシートなどでは

国交省の「安全確保の指針」がちゃんと反映されているか。

【池田財務部長】年3回以上の定期点検については、遊具の安全点検書を作成しており、それに基き詳細な点検を行っている。国交省の指針との整合の確認はできていないが、現在の最善の方法でやっている。国交省の指針を確認しながらブラッシュアップを図っていきたい。

【橋爪】NHKの番組では、NPO法人セーフキッズジャパンの山中理事長が出演され、「指針で定める基準の中には工学的な知識が必要なものもある。専門的な知識を持った人に遊具の点検を委託するなど、安全をチェックするシステム作りが大切」と述べておられた。当市においても専門家が入ったチェック体制を作るべきではないか。

【村山市長】安全点検は専門の知識を持った団体をお願いしている。そのなかのチェックシートの中で不都合のあるものは修繕する、また、根本的な不都合のあるものは買い替えることになる。ヒューマンエラーによる事故もあるので、（遊ばせる）担当者などの細心の注意が必要だ。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1902 2019.3.24
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五五〇回 「夢のようだ」

最後の最後にドラマが待っていました。時間にすれば、ほんの数秒の出来事ですが、おかげでこの日はずっとやさしい気持ちになれました。

小雨が降っていた日の午後四時頃のことです。私は、あるグループホームに入所している叔父のところへ行ってきました。

スタッフの方に案内していただき、談話室に入ると、入所者が四人ほどおられ、叔父は真ん中あたりの席に座っていました。私がマスクをしていたこともあって、最初はわからなかったのでしょうか、叔父は少し経ってから、「おーっ」と声を出し、手を上げて喜んでくれました。

叔父は満九三歳。少しやせた感じがしましたが、とても元気そうでした。「いい顔してるねかね、風邪ひかなかったかね」と尋ねると、「大丈夫」という答えです。顔の色つやも良く、安心しました。

「今年は雪が少なくてねえ。助かったわね」と言うと、「少なくて良かった。いっぺ降りゃ、ここになんかいらんねがだでも」という言葉が返ってきました。笑いそうになった私は、「おまんちも大丈夫だね」と言っていました。

次に話したのは母の実家のことです。「おらばちやの実家のお父さん、亡くなってさね。まだ七一、若いすけ、かわいそうだったわね」と言うと、叔父は六八歳で亡くなった自分の連れ合いのことをすぐ思い出したようです。「若いのに亡くなるのが切ないわね」と言いました。「そう言えば、叔母さん、亡くなったが二三日だったかね」と言うと、叔父は「そいが。いい人だった」と振り返りました。

スタッフの方が用意してくださったコーヒーをいただきながら、叔父と話をしている途中、急に叔父の手が動いたので驚きま

した。なんと叔父が厨房に入っているスタッフと声を出さずにジャンケンをしていたのです。多分、前に訪問したときに、叔父と「タナカさん、グー?」「グー」とやり合っていた女性スタッフだと思えます。ジャンケンも単純な遊びですが、こんな遊びを自分よりも若い女性を相手にやっているのは楽しいに決まっています。

前回訪問したとき、叔父は、「おい、ここに置いてもらおうわ。その方がみんなしてもらえるもん」と言っていました。ところが、今回、叔父は、「おれもここにいりゃ楽だでも、いつまでもそうしてらんねすけ、六月頃には帰ろうと思ってる」と言ったのです。心身ともに体調が良くなって、自分の家に帰るなら、それもありませんが、この気持ちの変化がどこから来ているのか少し気になりました。

叔父とは一五分くらい話をしたのですが、席を立つとき、ちょっとした出来事がありました。スタッフの方がコーヒーと一緒にお菓子も一緒に出してくださったのですが、そのお菓子を叔父が私に渡そうとしたのです。土産にしたかったのでしょね。私は丁寧に断りました。でも、その様子を見ていたジャンケンの女性がナイロン袋にそのお菓子を入れて、私に渡してくださったのです。叔父の気持ちを汲んだすばやい対応に驚きました。

そして玄関先のこと、ジャンケンをしてくれた女性ともう一人のスタッフが一緒に送り出してくださいました。そのときです、「タナカさん、夢のようだね」の言葉がわたしの耳に入ったのは……。

叔父が「夢のようだ」と答えたとき、叔父の顔を見ると、もう泣きそうでした。私は叔父の手をぎゅっと握り、「じゃ、またね」と別れの挨拶をしました。

町内会防犯灯LED化補助、3年間延長へ

上越市は町内会が管理する防犯灯のLED化補助を3年間延長し、2022年(平成34)度まで続けることを明らかにしました。これは当初計画していた2019年(平成31)度末までにLED化100%が困難となったためです。市では補助制度を3年間延長することでLED化率を100%にしたい考えです。

市のデータによると、2018年

(平成30)度は229町内会にたいして2501灯、1932万円(2019年1月末現在)を補助したといたします。この結果、町内会管理の防犯灯LED化率は約62%になる見込みとのことでした。

市は新年度一般会計予算で、防犯灯LED化補助金予算を2133万円計上、町内会管理の防犯灯LED化率を75%以上にすることをめざします。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	3月13日(水)	3月20日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.057	0.067
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.057	0.050



数種類のネコヤナギを活けた作品。春の光を求めて枝を広げているようにも見えます。3月14日、大島区にて撮影しました。